

2022 年度 学校評価のまとめ

～グリーン・ヒルズ小学校・中学校～

1. 本年度の学校評価への取り組み いいづな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、本年度より学校評価に取り組む こととした。また、学校関係者の思いや要望、教職員の思いや要望を 的確に把握す るためにも学校評価システムの構築に取り組んだ。

学校評価の流れ

2023 年 1 月 保護者アンケートの実施

2023 年 2 月 保護者アンケートを受けての自己評価

2023 年 3 月 保護者に保護者アンケート結果を報告 評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施 評価方法：保護者・自己評価 を受けての意見聞き取り及びアンケート調査

2023 年 5 月 理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告

2023 年 12 月 ホームページに公開

2. 自己評価の結果について

学校内での職員会や各学年会の中で結果を踏まえて、先生同士意見をかわし、今後に向けての取り組み内容を改めて話し合う機会を設けた

3. 外部関係者評価の結果について

今年度の評価者は、地域から 3 名及び学校教育活動に協力して頂いた方 1 名の計 4 名に依頼した。それぞれが保護者アンケートの結果を踏まえながらも学校を訪れた際の感想を含めた評価となっている。活動報告を行い、聞き取り調査を行う中で、学校運営や広報についてのご意見を頂いた。今後を活かしたい。

4. 来年度への課題

今年度の目標としてきた「自然体験活動を重視する中で、プロジェクト学習や基礎 学習の向上をはかる」という点に関して、自然体験からプロジェクトへのつながりについては、成果が定着してきたものの 教育課程や基礎学習との繋がりが見えにくい。来年度は、国際バカロレアの認定に向けて、カリキュラムの作成を進め、丁寧にすり合わせるとともに、基礎学力についても広げていくよう丁寧な指導を行い、「自ら学ぶ姿勢」が身につくようつくづくサポートしていく。

～2022 年度学校評価のまとめ～

グリーン・ヒルズ 小学校、中学校～ 学校評価の流れ 今年度の評価者は、地域から 3 名及び学校教育活動に協力して頂いた方 1 名の計 4 名に依頼した。それぞれに、保護者アンケートの結果を踏まえながらも学校を訪れた際の感想を含めた評価となっている。活動報告を行い、聞き取り調査を行う中で、学校運営や広報についてのご意見を頂いた。今後に活かしたい。今年度は、国際バカロレアのプログラムの導入の中、過年度までのプロジェクトをどのようにしたらより深い探究につながるのか、どのように子供達の力・やる気を定着していくか、熱心に取り組んできたが、教職員の戸惑いもあった。また、保護者の方々への説明の不足など、十分な理解を得ることができなかった。このことが厳しい評価となったのではないかと。

2022 年度 グリーン・ヒルズ評価シート

2022 年度グリーン・ヒルズの学校評価は以下の通りになりました。

A：評価できる B：やや評価できる C：やや評価できない D：評価できない

※ 評価段階：A > B > C > D

項目		評価			
		保護者	内部	外部	
達成の 具合	1	先生は、子供の学習に対する自立性を確立できる教育を行ったと評価できる。	B	B	B+
	2	先生は、子供達が助け合い、お互いのことを考えられる関係性の確立を達成したと評価できる。	A	A	A
教育課程の 満足度	3	グリーン・ヒルズは子供達が自ら学習したいと思える活動を提供していると評価できる。	B+	B	B
	4	グリーン・ヒルズは子供達が自ら学習したいと思える活動を提供していると評価できる	B	B	B+
	5	グリーン・ヒルズは子供達が担任や友人との信頼関係が構築されていると評価できる。	B+	B	B+
	6	グリーン・ヒルズは子供達が満足する学校生活を提供していると評価できる。	B	B	B
保護者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・バカロレアについてよく分かっていないので、保護者向けに他校の映像など、具体的な実践を見たり、専門家の話を聞いたりする機会等、学ぶ機会があると嬉しいです。 ・広報について、FB や HP 等の投稿が定期的に行われたり充実を感じるが、学校の知名度を他都道府県により広める活動を望む、いまだに「公立神話」を強く感じる長野県以外での生徒獲得を模索してほしい。 ・児童生徒数の増加については、現在手厚く対応していただけてありがたいですが、学年 10 人になっても他校よりはまだまだかなり少人数なので、子供が増えることへの不安は特にありません。 ・英語の授業について、現時点での英語の授業を子どもはとても楽しんでるようです。親心としては、促進したいですが、どのようなするのがいいのかよく分かりません。現実として学校の授業内だけでは難しいかとも思っていますので、家庭でできることなどアドバイスを頂けると助かります 				

内部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・バカロレアについて、小学校では概念としての学びについて教員と児童が共に学びが進んでいる。中学校では探究の学びをより概念化したり、行動にまでひろがるように取り組み始めた。 ・学校見学会では、本校の新しい取り組みである IB への転換期であることに理解を求め行った。入学検定では本校での学びに意欲的に、保護者・本人共に取り組めるかをより重視した。
外部の方の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からは、国際バカロレアへの理解不足や導入への不安がうかがえる。初期段階であり、効果は現時点では測れるものではないが、子供や保護者への丁寧な説明が求められているのではないかと。 ・定期的に学校を訪問する機会があり、今年度はグリーン・ヒルズの転換期ということ伺いました。学校内も掲示が増え、子供達の学ぶ姿勢も集中力や眼の輝きが変わってきていることが感じられます。 ・国際バカロレアが始まった当初は、先生方が迷いながらの取り組みでもあったため、子供達や保護者が不安感を大きくした前半であったと受け止めます。しかし先生方が国際バカロレアを真摯に学び、一人一人の子供理解を大切に授業改善に取り組んだ結果が後半、子供達の課題追及力や互いの違いを受け止め合える柔軟な心の成長を促したことは大きな成果だったと考えます

【次年度の重点目標】

「環境を活かした教育の充実により五感を育む」

「IB のプログラムによる探究を充実する」

「基礎学力の定着を図る」